



光 和

9月号
練馬区立光和小学校
平成30年9月3日
校長 城崎 真



求められる多様な人々との コミュニケーション力

新学習指導要領では、外国語で多様な人々とコミュニケーションを図ることができ、基礎的な力を育成するために、外国語教育の充実が求められるようになりまし。小・中・高等学校を通じて今まで以上に高い英語力を身に付けることが目標に設定されています。今まで、「慣れ親しむ」ことをめあてにしていた小学校での外国語教育が「できるようなる」ことが目標に掲げられるようになりまし。新しく配布された教材からも難易度が上がったことが伝わってきます。また、授業展開もゲームが多かった活動から実際の英語を



外国語授業の様子

聞いたり、話したりする活動が増えていきます。実際、現在六年生では、「夏休みの思い出」について話ができるように、一学期の終わり頃から学習を進めていきます。「思い出」なので、過去を表す表現が出てきます。中学一年の後半で習う表現です。日々の授業の中で感心するのは、子供たちの覚えの早さです。こちらが難しいと感じる表現も練習する度に、どんどん上達していきます。チャンネルでは、回数を重ねるうちに「テンポを速くしたい。」「カラオケでやりたい。」といった要望も子供たちの方から出てきます。友達同士で交流する活動では、限られた時間の中でたくさんの友達と話そうとする子、友達と表現を確認しながら一生懸命話そうとする子、英語でのリアクションが上手な子など、友達とのコミュニケーションを楽しんでいる様子もたくさん見られます。

また、地域連携事業の一つとして、昨年度、英語の授業をサポートしてくださる「英語アシスタント」を募集しました。今年度、約二〇名の方にご協力いただき、一、二年生の英語の授業で発音の手本や絵本の読み聞かせ等を行っていただいています。細かい日程調整等は、学校コーディネーターの方にもご協力いただくことができ、保護者や地域の方々の支えで、子供たちにとってより楽しく充実した活動を行うことができていることをとても有難く感じています。

私自身、昨年度まで学級担任をしていたため、英語指導や英語力について力不足を感じていますが、「先生たちが一生懸命英語を使おうとすることが大切」と言われていることを励みに日々の授業を行っています。英語は手段であって、英語を使って「何ができるか」が大切にされています。子供たちが、世界の中の一人として、様々な人たちと自分の思いを伝えながらコミュニケーションをとることができるようになることを目指しています。(文責 英語専科 青木京子)

四季折々

校長 城崎 真

「教員の勤務」

七月号で「働き方改革」について書きました。今回は、知ってそうで知らない教員の勤務についてご紹介いたします。

まず、教員の勤務時間は七時間四十五分です。以前は、八時間だったのですが、十五分短くなり、その分給料も減らされました。光和小教員の勤務は、八時十五分から十六時四十五分(水曜日は十五分繰り上げ)です。ここでお気付きの方もおられるでしょう、児童の登校時刻と合わないことを。

さて、ご存知のように労働基準法により六時間を超える勤務の場合、途中に四十五分間の休憩を管理者は取らせなければなりません。一般的な会社等は、昼食時にこの休憩を取ります。教員は、給食指導があるので、この休憩を十五時四十五分から十六時三十分まで取ります。そして、終業までの十五分間勤務します。この時間は、「夕会」と呼ばれ反省や連絡事項等の打合せ時間となっています。ですので、この時間の電話連絡はお控え願っています。

ここで、ある担任の一日を紹介します。八時五分に教室で子供たちを迎えました。全校朝会→一、二校時→二十分休みは、校庭看護当番→三、四校時→給食指導→清掃指導→昼休みは校庭看護当番→五、六校時→帰りの会→児童のトラブルの聞き取り(十五時四十五分まで)→休憩→夕会。そして、十六時四十五分、勤務時間終了。

この時間から各種の業務に入ります。テストの採点、翌日の授業準備、学年での打合せ、校務分掌分担の提案書類作成、保護者への連絡、…。勤務時間内に、やらなければならない業務をする時間は、ほとんど無いのが実情です。教職員の健康管理者として、思い切った改革を進めてまいりますことご理解願います。(二〇一八年 九月)